



古川 裕樹人さん

介護福祉経営士1級資格試験合格

EXIAパートナーズ株式会社 / EXIA 公認会計士共同事務所
代表取締役 公認会計士 税理士

ふるかわ・ゆきと ●証券会社、KPMG 有限責任あずさ監査法人を経て、EXIA 公認会計士共同事務所を開設。上場企業会計監査、M&A 支援、事業再生、内部統制構築を数多く手掛ける。すべての企業、事業の利益最大化を常に考え、工場ライン効率化、不正防止体制構築、クラウド会計移行支援まで対応している。

介護・福祉業界で高まる会計監査のニーズ 専門家としてサポートすべく資格を取得

公認会計士としてさまざまな業界の会計監査を手掛けています。

以前は大手監査法人で上場企業を中心に会計監査やM&A支援、事業再生、内部統制構築の業務に携わっていました。

2016年に事務所を設立し、現在に至ります。

介護福祉経営士の資格を意識するようになったのは、同年の社会福祉法の改正にともない、一定規模を超える法人に会計監査が義務付けられるようになったことがきっかけです。

この改正により介護事業所の会計監査などに関わる専門家は増加しました。ところが、この会計監査に対する介護事業所側の満足度は必ずしも高いとは言えないようです。



「介護業界とぜひ積極的に関わっていききたい」と語る古川さん

実際に厚生労働省が2019年8月に公表した「社会福祉法人の会計監査人に関するアンケート結果」でも「会計を見るだけで有益な助言はなかった」など、不満の声が挙がっています。

私はこのような状況を改善し、より質の高い監査を行うためには介護業界の状況や仕組みをきちんと理解した専門家が今後必要になると強く感じました。

そうした観点から見て、介護福祉経営士は私の想定する介護業界へのアプローチ方法に適した資格だと感じたため、取得を決めました。

受験するにあたってはテキストを一式購入し、業務の合間を縫って学習。時間が限られているなかでいかに効率的に学ぶかを考えながら進めました。会計の知識は既存の知識で対応が可能でしたが、介護業界の仕組みや介護報酬のあり方など、まったく知らないこともあり、学習を通じて、業界を網羅的に捉えられたと思います。

1級試験合格後は富山県の介護施設で実践研修を受けました。現場を目の当たりにできたのは大きな収穫です。受講者には介護福祉士の方や介護施設の建設に携わる建築業界の方もいて、この資格には多様な業界からニーズがあることもわかりました。介護・福祉業界を良くしたいという同じ志を持つ仲間と話ができる、貴重な体験になったと思います。

福祉の知識を持った 会計の専門家として 介護・福祉業界に貢献したい

会計監査やM&A支援による貢献で 会計士が福祉業界のインフラに

会計監査の目的として、会計処理の適正化に加えて重要なのが、内部統制の構築です。社会福祉法人ではこの内部統制が適切に構築されていないことが多いため、結果的に理事長などの組織のトップが横断的にすべての部門を見ざるを得ず、経営に集中できていないケースが見受けられます。

また、その一方で会計士の多くが慣れ親しんでいる一般企業の内部統制のイメージと、福祉関連の法人の内部統制との仕組みの間に大きなギャップがあることも考慮しなくてはなりません。

今後こうした課題に対応するためには、いかに福祉業界に関する知識を身につけた専門家を確保することができるのかが、カギになるのでしょうか。

将来的に社会福祉法人の需要はさらに高まることでしょう。同時に会計士の活躍の場も増えていくはず。会計監査を通じて健全な経営基盤の構築に貢献したり、近年増えつつあるM&Aなどの場面における公正な取引の支援など多くの選択肢があります。そうした関わりを通して、福祉事業者との信頼関係を構築していくことができれば、福祉業界内のインフラの一つとして会計士の存在がより強く認識されるようになるのではないのでしょうか。その際、介護福祉経営士の資格は「この会計士は介護や福祉のことをわかっている」という福祉事業者へのPRポイントとして活用できると考えています。

これから介護をはじめとする福祉業界へのアプローチを強めていくにあたって、私自身の学びもより深めながら、適切な経営のありかたを社会福祉にかかわる皆様と共に模索していきたいと思っています。

